CSSとは

HTMLを飾り付けしてくれる。（文字の色を変えてみたり、大きさを変えるなど）

HTMLの中に記述もできるし、別のファイルに記述することもできる。

要素名に対してどういった飾り付けをするのかを指定していく。

HTMLでは要素名と呼ばれていたがCSSではセレクタと呼ばれている。

## 書き方の説明

### サンプル

セレクタ {

プロパティ: 値;

}

### 書き方

h1 {

color: red;

}

セレクタ・・・h1

プロパティ・・・color

値・・・red

### 考え方

どこの {

なにを：どうする

}

**セレクタにはHTMLの飾り付けしたい要素を入力。**

h1を飾り付け！宣言

colorを指定するので **h1** の文字の色を変えたい！

値にはプロパティは？

文字の色は **red** です。

テキストエディタでCSSの記述をたくさん書いたものを、基本的に「css」フォルダに「○○○.css」という名前で保存する。基本的に保存をする際は文字コードUTF-8で保存してください。

## HTMLページにスタイルシートを適用する

HTMLページにスタイルシートを適用するには、先ほど保存したファイルをHTMLページから呼び出すが基本です。

もちろん、HTMLページの中にスタイルシートをまとめて記述する事もできます。

### どうやって呼び出すの？

HTMLページから.cssファイルを呼び出すには、<head>タグの配下で<link>タグを呼び出すだけです。

### サンプル

<head>

<link rel=”stylesheet” href=”css/main.css” />

</head>

href属性には、呼び出したいスタイルシートへのパスを指定します。「css/main.css」とは、「現在のフォルダ配下のcssフォルダの、またその下のmain.cssファイル」という意味です。

「css/main.css」の部分は、.cssファイルの実際の保存先や名前に応じて変えていかないといけません。

## cssファイルの考え方

1.htmｌタグで指定する場合、2.id値で指定する場合と3.クラス名で指定、の3パータンがあります。

#### 1.htmlタグ名で指定する

「タグ名{...}」の形式で特定のタグ(要素)に対してスタイル付けできます。例えば<body>に背景色をつけるなどです。

body {

background-color:#ccc;

}

#### 2.id値で指定する

「#id値{...}」(戦闘はシャープ)の形式で、特定のid値を持ったタグに対してスタイル付けです。

id値は、それぞれの要素に割り振られた背番号という感じで捉えてください。

「#id値{...}」を利用するということは、特定の要素ひとつにだけスタイルを割り当てます。

たとえば、サンプルでは以下のように、id値が”result”である要素に対してスタイルを適用しました。

#resullt {

background-image: url(../image/bg.jpg);

background-color: white;

}

#### 3.クラス名で指定する

「.クラス名{...}」(先頭はドット)の形式で、特定のクラス(class属性)を持ったタグに対して、スタイル付けできます。特定の役割をもった、複数のタグに対して共通のスタイルを適用したい場合に利用します。クラスとは、タグを意味的に分類するグループのようなものと捉えてください。

たとえば、ボタン形状の要素に対しては、一律に、class属性の値をbtnmenuとしておくと、同じ役割を持つタグに同じスタイルを適用しやすくなります。

.btnmenu {

margin: 5px;

padding: 5px;

}

#### 4.1～3の組み合わせ

1～3のセレクタは、互いに組み合わせることもできます。組み合わせによって、より目的のタグをと特定しやすくなります。

a.btnmenu {…} class属性がbtnmenuである<a>タグ(「要素.クラス」の形式)

ul a {...} <ul>タグ配下の<a>タグ(セレクタを半角スペースで区切る)

#result > a {...} id=”result”である要素直下の<a>タグ(セレクタを「>」で区切る)

div, p {...} <div>タグ、または、<p>タグ(セレクタをカンマ「,」で区切る)